

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
122	2007/04/25	70121	バイエル 薬品	pH4処理酸性人免疫グロブリン	人免疫グロ ブリンG	ヒト血液	米国	有効成分	有	有	無	HIV	EMEA/CHMP/BWP /298388/05 2006年 9月21日	EMEAによる、血漿プール中の抗HIV抗体検出のためのイ ムノアッセイの確認に関するガイドライン。市販キットを使 用する際の注意事項、血漿プール試験のためのSOPなど が述べられている。
												B型肝炎	EMEA/CHMP/BWP /298390/2005 2006 年9月21日	EMEAによる、血漿プール中のB型肝炎ウイルス表面抗原 (HBsAg)検出のためのイムノアッセイの確認に関するガ イドライン。市販キットを使用する際の注意事項、血漿 プール試験のためのSOPなどについて述べられている。
												重症急性呼吸 器症候群	Transfusion 2006; 46: 1770-1777	血液由来製品を模した蛋白質溶液中の重症急性呼吸器 症候群コロナウイルス(SARS-CoV)を不活性化する方法 として、加熱、UV照射、オクタン酸、溶剤/界面活性剤 (S/D)法を検討した。その結果、60°Cで15-30分間加熱お よび40分間UV照射はSARS-CoVを不活性化した。UVA 照射はソラレン添加を必要とし、オクタン酸処理は SARS-CoVを不活性化できなかった。S/D処理は、SARS- CoV不活性化に、Triton X-100は2時間、Tween 80は4時 間、石炭酸ナトリウムは24時間を要した。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	CDC 2006年11月29 日	米国で3例目のvCJD症例が確定された。サウジアラビア で生まれ育った若年成人で、2005年後半から米国に住ん でいる。2006年11月下旬にアデノイドおよび脳生検により 確定診断された。この患者に輸血歴やヨーロッパ訪問歴 はなく、子供の頃にサウジアラビアでBSE感染牛製品を摂 食したことが原因と思われる。この患者に供血歴はなく、 公衆衛生学的調査により、米国住民へ伝播の危険はな いと同定された。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Vox Sanguinis 2006; 91: 221-230	散在性(s)、家族性(f)および異型(v)クロイツフェルト・ヤコ ブ病(CJD)が輸血を介して感染伝播するかを判定するた めに、英国CJDサーベイランスユニットと血液サービスに より進行中の試験の2006年3月1日までの結果である。 供血者として報告されたvCJD 31例中18例、sCJD 93例 中3例およびfCJD 5例中3例の血液が、各々、66例、20例 および11例の受血者へ輸血されていた。2例の受血者に おいてvCJDが確定していた。また、vCJD11例中7例、 sCJD52例中7例が、輸血の既往歴があった。